

あだたら

第377号

発行所 松本市 助会
編集 山部 松本 山部
編集 松本 山部

二月九日(日)

三月山行、
冬の里山歩き、天井山から千貫森へ
報告

□□□□



10時38分、天井山山頂

●編集部連絡先
二本松市 助会 11-515
0243(22) 4245
渡辺 正

冬の里山は、手軽に登れるのがよい、裸木の梢を遊び廻る。小鳥たちを見るのがよい。木々の間から遠くの冠雪した山々を眺めるのがよい。解け出した氷の滴のさやかな音を聞くのがよい。霜柱を踏むサクサクという音がよい。仲間と作って食べる温かい汁がとてもよい。



千貫森 (462m)

天井山 (532m)

UFO登山 □□□□
当日は、道の駅安達八時集合であったが、送迎の順番等もあり、千貫森登山口に八時過ぎから早くも集まってきて、準備体操などして、八時二十分には登山開始となる。入会体験者もおり十名になり、賑やかになり、付近の住民も久し振りの団体登山に驚いていた。千貫森は本当はこの場所(小手神社鳥居)から急登するのが基本であるが、現在では中腹駐車場より登る様で楽に登頂できるが、岳人は昔からの道を選定している様子だ。予定より早くUFO広場を過ぎ、西山の安達太良連峰から吾妻山を大展望、真っ白で猛吹雪で登山は不叶に思えるが、こちら千貫森は晴だ。

山の西側に回ると春先に群生するカタクリの花が咲く分岐を左に急登する。顔も寒いと言うか冷たいと感ずる所にあいにくの強風が吹き荒れる。耳も冷たいとききは気温もマイナスに下がっているのが長年の巧で判断できる。凍っていて硬い天井山への縦走路を皆黙々と歩く。体はもうポカポカ一息しながら衣類調整で休む。間もなく天井山登山口に到着。昔はいつも数台は駐車があったが、今はどこもガラガラ空いている。高齢者が車を返納しているかと働き方が不便になり、結果と残念に思う。又海外からの新型コロナウイルスの影響もあるのだろうか。

UFO登山 □□□□
当日は、道の駅安達八時集合であったが、送迎の順番等もあり、千貫森登山口に八時過ぎから早くも集まってきて、準備体操などして、八時二十分には登山開始となる。入会体験者もおり十名になり、賑やかになり、付近の住民も久し振りの団体登山に驚いていた。千貫森は本当はこの場所(小手神社鳥居)から急登するのが基本であるが、現在では中腹駐車場より登る様で楽に登頂できるが、岳人は昔からの道を選定している様子だ。予定より早くUFO広場を過ぎ、西山の安達太良連峰から吾妻山を大展望、真っ白で猛吹雪で登山は不叶に思えるが、こちら千貫森は晴だ。

らと働き方が不便になり、結果と残念に思う。又海外からの新型コロナウイルスの影響もあるのだろうか。沢登り、滑川(なめかわ)も徒渉など続々と川も一面結氷していてバリバリだ。雪は探すほど無いが、風が遮られて先程よりは暖かみも出てくるが、滑落しない様に登る。名所・宇宙人の落とし物(いぼ石)や泉があり引き水水源も昔から利用され、保守もされて現在も貴重な生活用水になっている。「天女の逆松」は山が荒れており未確認だった。登っていくと展望が開けて女神山から一貫森まで、右には羽山へと続く。駒桜や亀岩もすぐ下だ。



12時26分、千貫森山頂

登った。大分いつもの道迷い文章なので元に戻る。近くの掛田にある、雨乞い山もお薦めだ。時間は予定より早く十時二十五分山頂着となる。天望は南西から南に、北側は松林雑木林であり、日向になっている。牧草地、三等三角点が建っている。すぐ大展望のある第二電電中継局がある所に来た。安達太良山は穏やかな様だが逆だ!!。吾妻山は家形山あたりから栗子山・駒ヶ岳にかけて雪の源このあたりからいつでも大きな雪雲となって大笹生から福島方面は大雪になる。南に花塚山・口太山・高太石山、鎌倉岳、日山は口太

山の左裏で少ししか見えな。木幡山から移ヶ岳・蓬田岳・黒石山・高柴山が見える。岩角山も特徴がある。暫く見とれていて飽きないが、これで今回の山行の半分だ。復路は舗装道路を。懐かしい牛の堆肥の話、カブトムシは枯葉の堆肥からと口くさんの説明を聞きながら下山し、寒いので具いあまり無い様だ。全員皆さんワイワイガヤガヤと話しながら行くと、天井山入口で仙台から来たという我々と同じ年代くらいの五人組の男女の登山者が。話してみると千貫森を登って来たとのこと、激励し合っ別れた。(二面に続く)

二月二日(日)

記念登山

報告 □□□□



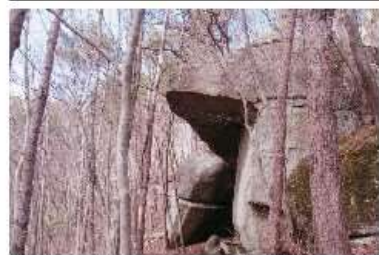
2020/02/02

電子山には道が無いと聞き、私は道が無いと信じていたが、「ふくしまの低い山五〇」という本で道がある事を知り、昨年二月挑戦した。電子山登山入口の看板を見付け入山する。林道を登り途中から山道に入る。電子姫神社まではトラロープなどもあり、電子姫神社まで行く事が出来たが、その先は道らしい踏跡も無く、古いテープを頼りに登ってみたがテープも無く登れそうもない壁となり、あきらめ、引き返して来た。

友より電子山の山頂に行ってきた話を聞き、再挑戦して見ようと考え、二月二日出発する。車窓から日山、大滝根山の山頂の綺麗な霧水を見、登山口の看板探しながら車を進める。少なくとも三箇所電子山登山道入口の看板がある。林道の出入り口の両方にあり、どちらから行っても昨年登ったコース電子姫神社まで入る事が出来る。今回は田村市と葛尾村界近くの看板より入山する。作場道を通り杉林から尾根に取り付き葛尾村との界を登り岩場を越えると間もなく三等三角点のある電子山山頂(九二一



雑木林で眺望を楽しむ事が出来ない。登山道と言っても獣道に同じで笹なども有るが、目印のリボンが付いて有るので、迷う事はない。あちこちの木々の間から望む事が出来る所があるが、期待はできない。少し山ツツジがあるが、これも期待できない様だ。途中電子姫神社の看板がある。目印があり二、三十メートル位行くと、大きな岩屋の奥まった所に電子姫神社が祀られていた。電子山には電子姫神社が二箇所あり、どちらも大きな岩屋の奥まった所に祀られており、約五百メートル離れているとの事。どちらにも電子姫神社の伝説があるみたいだ。電子山登山と電子姫神社の伝説を調べるのも楽しいのかな。



電子姫神社の石室

天井山・千貫森 (続き) 今回の最終目標の千貫森山へ向かう。沼もあり、凍っていたが、「寒」も明けており、暖冬なので、又見た目も渡りたくない気持ちだ。余談だが、小学生の頃だが沼でスケートをしたり遊んでいたら友達の水が割れて水の中に水没、見えなくなったが直ぐ浮いて来たので、助けに行き、引っ張り上げた。何も無かった様に家に友は帰って一件落着!。さて間もなく山の麓に、此より急登の連続で山頂に。あちこちにUF0宇宙人が居り励まされる。二班に分かれて登ったら急登組が北裏側からの、遠いコースの口口さん組に合流された。しかし相変わらず、早い。山座同定して今回の踏跡を辿り、皆で「結構歩いたな」とお互いの健闘をたたえ合った!!。十二時半になった。千貫森山頂を下山して、



目立つ天井山のアンテナ



13時28分、冬の里山名物のラーメン作りです

た。留守の正副会長、企画事務局の車両提供運転、各担当者、早朝より本当にお世話になり、ありがとうございます。感謝の気持ちを伝え合っ



8時28分、小手神社、参道



8時25分、小手神社登り口



8時23分、集合場所

二月六日(木)
社会福祉法人・菊の里
あおぞら教室、そりすべり

報告 編集部



小雪の中、記念撮影

【参加者】 □□□□、□□□□、□□□□(三名)
【行動】二本松市の社会福祉法人「あおぞら福祉会菊の里」は、二月六日(木)、二本松市塩沢スキー場で「あおぞら教室・そり滑り」を実施した。今季は強烈な暖冬で十二月中は各スキー場とも雪不足で開場できず、一月半は漸く降雪積雪となり、オープンとなった塩沢スキー場も同様だった

が、あおぞら教室の時には十分な積雪となっていた。当日は曇り空で小雪が降っている状況、それでも参加者は、記念写真撮影と準備体操をして、早速そりすべりを開始した。場所はゲレンデ内を任切ったそりすべり場。利用者、そりすべりにも大分慣れてきて、殆どの人が一人で滑られるようになった。二人で乗ったり、つないでグループで乗った

り大いに楽しんでいた。昼食は特製のハンバーグカレー、午後も一時間ほど楽しんだ後、レストハウス内で「終わりの会」。利用者代表からボランティアに御礼の品物を手渡しして、今回のそりすべりを終えた。当会からは三名が参加した。



天井山・千貫森 (続き)



11時28分、天井山入口で、仙台から来たグループと遭遇

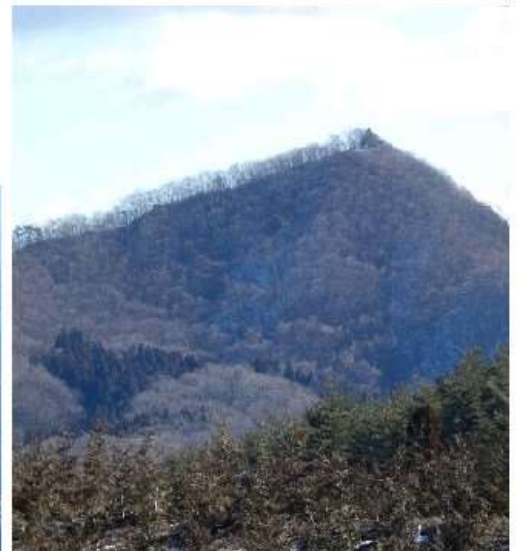


天井山のいぼ石、第三紀火山の獲得岩

大名倉山



10時57分、天井山から 霞ヶ城公園を見る



10時29分、女神山、天井山から